時事新報

支那論（前號の續き）

支那政府の外交政略を推察するに唯その版圖を失はざるを務めて新に土地侵略と遑うするの考なきこと明白なるが如し支那本部の其外に滿州蒙古西藏韃靼内外屬府の邦土を併せるらば實に廣大無邊のものにて今日の勢はその帝國を自持するに汲々餘閑なき支那政府が尙ほ其上に領分を弘るの必要果まて何處にあるべきや人口四億といふ聲れみを聞けば戶口過溢して少しの餘地を殘さゞるの國と思はるゝなきにあらねども其面積に比較まて論ずる時は支那帝國のその版圖は今後數限りなき人口を繁殖せしめて更よ差支ある可からず最近の統計表に據るに其面積四百十七萬九千平方英里にして人口は四億零四百十八萬即ち一平方英里の平均人口僅かに九十七人あり歐洲諸國にて同じ一平方里に付き人口の割合は少なきも三百人多きは五百人以上よして即ち國に耕そべきの閑地なく又住むべきの餘壤なきが故に亞米利加の如き或は濠陸諸洲の如き無人跡の地と穿索して移住を爲すまとも要用なれ共支那の國民は決して海外よ出るに及ばず鎖國籠居して多々倍々人口の繁殖を縱まにせまむるも廣漠たる領土ろの天與の賜を享けて餘裕あるが故に支那政府に於ても決して外住を獎勵するの要用を見ず先般合衆國に於て支那人の來住を拒絶したる其折よき支那政府は平氣の顏色にて御不都合とあらば弊國の人民一切貴國の御厄介に相成るを要せずと言はぬ許りよ彼の移住禁止條例を諾したるは亦以て其政府意見れ所在を知るに足る可し或人ハ支那人が頻りよ外國に出稼するを見てみれは本國に人口過溢あるれ故ありと云ふものあらんも知れずと雖とも其所說は支那の實情を解せざる議論にして本來支那人が海外出稼れろの目的は皆貨銀を貯蓄し之を齎らして本國に歸らんとするになゝざるなし彼の愛耳蘭人若しくは日耳曼人が亞米利加に移住するは本國人口の多きに苦しんで餘裕を海外に求むる爲めなれば支那人逐圓主義の出稼とは同日にして論ずべからず但し支那本部の人口に就て言ふ時は海岸最寄りの市府に戶口甚だ稠密を致し最前たる小屋に多人數の群居する其樣は一見驚くよ堪えざれとも少しく內地に履入る時は廣漠たる千里れ沃野人煙の稀疎なるまと支那旅行者の實見する所なり斯かる邦土の政府なれば獨り其人民と海外よ出すの必要なきのみか內地れ開拓殖民と計らんためには寧ろ外住を禁止するも利益にして支那帝國の外交政略はたゞ保守の一義を守り、其版圖を今の儘に維持するに遑なゞざるよ將た何を以て外國に事端と開くの望をあらんや安南を爭ひ朝鮮を擁護するも敢て侵略併呑の慾を逞うせんとするにあらずして唯みれを中國の藩屏となすまでの考案なるまと疑ふ可からず或は一時の虛喝策よて威張り得る丈けは威張る手段もあらん即ち彼れが平生得意の筆法あれども眞實の決心覺悟を叩けば唯帝國の版圖を保つを目的として容易に此境界を踰えざるよ在るのみ其證據は安南れ一條、最初彼れまでに宏言と吐きながら戰爭の末、佛國西より和と入れされば遂に之ぉ屈して東京全體の管理權と佛人に讓り自分はさゞ雲南の交界を全うしたるにて不平を言はざりし事例にても明白なる可し

上來陳述しさるが如く支那は近來取分け佛蘭西との戰爭以後西洋文明の利器を採りて自家自衛の策の大切なるを悟り就中電信交通の便を利して各省總督の私權を殺ぎ中央集權の基礎確立したる其處に英國は商賣政略[illegible]の考へを以て支那との交際を密にし支那も亦其助援を假りて露國の侵掠よ抗せんと欲し北疆屯田の法に依て露の南向を喰止るに望みもあり其他安南の如きも當分ハ先づ無事に治まり西洋人の侵略に懸念す可き危險も尠なきその上に領土亦甚ざ廣大なれば唯みれと保守するに忙はまく强ひて外國に事を好むの政策にあらずとそをば今後支那國の運命は唯無事繁昌ならんと云ふの外なし殘る所は國論の如何んと又其在朝政治家の擧動なれとも淸廷に有力の人物を計ふれば先づ李鴻章に指を屈す可し此人ハ有名なる改進家にして且つは淸廷中興の功臣なれば聲威兼ね備はり支那の國論を左右するに力あるは勿論なり又今の國父惇親王と申そは以前攘夷家の由にも聞ねしが君子豹變まて今は改進れ政策と持すると知れたれば李氏の政友無二の人あるべし此外にも尙ほ有力なるは總理衙門の大臣曾紀澤にて曾氏ハ故曾國藩の嫡子それ功勳門閥より論ずれば滿朝の百官殆んど比肩するものなかるべく特よ久しく歐洲に駐在して西洋の文物と知ること惇李諸氏の比にあらずと云ふ斯かる純然さる開明主義の思想にて外國交際れ樞機と握るからには支那政府の政治家は揃ひも揃ふたる改進主義の人物にして百事意の如くならざるなきよ似たれ共抑そも北京の政府は一種特別の政府にして頑迷なる故老の淵藪たるを免かれざ功臣老相依然たる舊時の鎖攘主義を懷て惇李諸氏の政略に反對し逆流の挽回を計らんとするも明白の理なれば其國論の一點よ於ては自から圓滑を失ふなきを期せざ斯かる軋轢の眞中を切り拔け潜り拔けて支那前途の運命を決せんまと容易の事業にならざるべし

（未完）

官報

○遞信省告示第百三十號

來ル八月一日ヨリ岩代國信夫郡福島郵便局電信局ヲ合併シ福島郵便電信局ト稱シ同日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム

明治二十年七月二十一日　遞信大臣子爵榎本武揚

○遞信省告示第百三十一號

武藏國橫濱區吉田町二丁目郵便貯金預所本月三十一日限リ廢止ス

明治二十年七月二十一日　遞信大臣子爵榎本武揚

○褒賞　昨二十日賞勲局に於て黄綬褒章を授與するもの左の如し

正三位勳四等伯爵　松平茂昭
從三位伯爵　柳澤保申
從四位勳四等伯爵　小笠原忠忱
從五位　高島嘉右衛門
從六位　金須松三郎
（各通）

愛國の衷情を表陳し防海の事業を賛成し金壹萬圓獻納す依て明治二十年五月二十三日勅定の金製黄綬褒章を賜ひ茲に之を表彰す

從七位　中井新右衛門

愛國の衷情を表陳し防海の事業を賛成し金五千圓獻納す依て明治二十年五月二十三日勅定の銀製黄綬褒章を賜ひ茲に之を表彰す

○電報數及料金　遞信省內信局に於て調査せる昨十九年中各郵便電信局及電信局に於て取扱ひたる電報數並に料金の精算高及一昨十八年中の分の比較は左表の如し（遞信省）

	内國和文 信	内國和文 通	内國和文 金	内國歐文 信語	内國歐文 通	内國歐文 金	海外和歐文 語	海外和歐文 通	海外和歐文 金
十九年中	四六九九、三一五	二三六二、七〇四	六一五一六六圓九九〇	二六二、三六五	二〇、八八一	二七、三八二圓八〇〇	二一〇、二二〇	二七、〇四二	七三、〇八三圓〇六〇
十八年中	四一九四、六七三半	二四八九、一七九	六九八九九二圓三五八	二三、九八四半　一一、二八〇	一九、四一九	二八、五四五圓一七〇	二二〇、四〇九	二四、七四一	七九、三七三圓一一七
比較		減一二六、四七五	減八三、八二五圓三六八		増一、四六二	減一、一六二圓三七〇	減一〇、一八九	増二、三〇一	減六、二九〇圓〇五七

	合計 信	合計 語	合計 通	合計 金
十九年中	四六九九、三一五	四七二、五八五	二四一〇、六二七	七一五六三二圓八五〇
十八年中	四二〇七、六五八	三三一、六八九	二五三三、三三九	八〇六九一〇圓六四五
比較			減一二二、七一二	減九一、二七七圓七九五

十八年六月迄は内國和文二十字歐文二十語以内を以て一音信とせり然るに電信條例取扱規則の改正に依り同年七月以降は和文十字以內を以て一音信とし歐文は五語以上一語毎に計算するを以て內國和歐文の信語數に限り前年の分と比較し難し

○黑磯郡山間鐵道哩程　黑磯と郡山との間ある鐵道哩程は黑磯豐原間一〇哩三八鎖五三輪豐原白河間六哩一二鎖三三輪白河矢吹間九哩二〇鎖七五輪矢吹須賀川間七哩三三鎖四〇輪須賀川郡山間七哩一二鎖五九輪合計四〇哩四一鎖五九輪あり（鐵道局）

○佛蘭西新内閣員履歷（昨二十日の續）

工部卿ド ヘレヂアー氏　氏は千八百三十六年十一月を以て古巴島のハウアーヌ府に生れ千八百七十年中佛國の籍に入れり千八百七十三年より千八百八十一年に至る迄巴里府區會の議員を務め學校の事に盡力せると甚た多し而して千八百七十五年には巴里府歲計豫算報告委員となり千八百八十一年の總選擧會に於て塞納州の代議士に擧げられ急進左黨の列に在り千八百八十五年十月の選擧に於て二十八万四千百三十三票を得て同州の代議士に再選せられたり

商務卿ドートレーム氏　氏は嘗と陸軍藝術學校の生徒にして千八百四十七年の昇進に與かれり千八百四十八年二月の革命後學校を出て、里昂府に到り假政府の代理官たるエマニユエール アラゴー 氏の書記官を務めたりドートレーム氏は現今セーヌ エ ンフエッサウール州の代議士にして既にプリッソン内閣の時に在りて入りて商務卿の職に就けり氏は千八百二十六年に生れ本年六十二歲なり

農務卿バルブ氏　氏は嘗と陸軍藝術學校及メッツの陸軍專門學校に在りて其業を修め砲兵大尉となりしか後ち工業に從事するため其職を辭せり千八百七十年中再び武職に就きツール城寨（佛國ムールツ郡に在り）の砲兵を指揮し勇奮防禦の功を以てレジヨン ドノールの勲章を受領せりツール城沒落の後は護國民政府より爆裂藥製造法の研究を命ぜられ遂に能く其功を奏して一日一千基の爆裂藥を工兵に給するに至れり此時よりして氏は爆裂藥製造を以て專業となし佛國は勿論外國にも其製造所を設け盛に其業を行ひ且つ其同業者と共に人造肥料並に穀物用植物の耕作に付きて精細なる研究をなし其資產甚た富裕と稱せられたり氏は又農業及工業上の問題に付きて屢ゝ書を著述し千八百八十五年十月の選擧會に於てセーヌ エ ワーズ州の急進黨に列し第二回目の投票を以て代議士に選擧されたり而して氏は本年齡五十一歲なり

此に新舊內閣員の官職を對照せんにルーウ井エー氏は內閣議長を以てゴブレー氏に大藏卿を以てドアエン氏に代りフアリエール氏は內務卿を以てゴブレー氏に代りスピユレール氏は文部教部及美術卿を以てベルトロー氏に代りフルーラン氏は外務卿を以て其儘前職を襲ぎフエロン氏は陸軍卿を以てブーランゼー氏に代りバルベー氏は海軍卿兼植民卿を以てオーブ氏に代りマゾー氏は宣憲官司法卿を以てサリアン氏に代りド ヘレヂアー氏は工部卿を以てミヨー氏に代りドートレーム氏は工商務卿を以てロクロワー氏に代りバルブ氏は農務卿を以てドウヴエール氏に代れるあり又新內閣員の黨派を區別すればルーウ井エー、フアリエール、スピユレールの三氏は孰も聯合左黨に屬しエチエンヌ（新任大藏次官）及トムソン（新任植民次官）の二氏も亦此黨に列すド ヘレヂアー及バルブ兩氏は急進左黨を代表しドートレーム氏はプリッソン派獨立黨の一人ありバルベー氏は共和左黨に屬しマゾー氏は共和聯合黨に屬し而してフルーランス及フエロンの二氏は共に議院の黨派外に立ちし人なり（去月二十五日官報本欄參看）

（以上本年七月廿一日官報）

雜報

○食物改良の成績　海軍省衛生部にては先年來海軍軍人一般の食物を改良し衛生上非常の成績を擧げたるとは豫て世上に評判する處あるが今同部の報告書に就て右成績の概略を摘記せんに明治十五年朝鮮事變れ際派遣しさる艦船及同時品海に碇泊せし軍艦の如き其他先年來外國に航行せし諸艦の乘組の兵士疾病に罹るもの頗る多く殊に脚氣病に惱む者尠からず其勢ひ本邦海軍は一朝事變に際するも殆んど實用を爲し難きの徵候を呈したり之に依て同年十月同省に於て脚氣病調査委員を設け南米に航行せし軍艦即ち龍驤艦に就て之を調査したるに該病は全く食品調合の不良に歸すると を證明するに至り十七年二月之が豫防法を實行して肉食の量を增給せしに果して大に其效病と減し且同時に一般病症の著しき減少を來たり乃ち同年は前年に比するに兵員千人に對し一般病症[illegible]三百七十二治療日數一萬三千三百零八日[illegible]脚氣病は兵員千人に對し百零四人治療日數[illegible]七十四日死亡七人强を減ず十八年更に米食に換へて麦飯（挽割麥）[illegible]食を給せしに同年は前年に比するに兵員千人に對し[illegible]般病症數八百七十一治療日數一萬千八百九日死亡九約一人を減じ脚氣病は兵員千人に對し百廿二人治療日數五千五百十日を減じ死亡絶無に至る十九年は兵食備

んど前年に均しく
以てせし處あるの
に對し一般病症數
日を減し脚氣病ハ
に本年の治療日數
千人に對し治療日數
減せしと確實なり
を以て推算すれば
死亡七十三人と減
七百零八人の健兵
は實に軍人の健康
云々と見えたり

○鎌倉海濱院の創
ると近來漸く世に
きは衛生上一大缺
る人の多かりしよ
を相して右海濱院
多く橫濱の醫士近
會計のことハ橫濱
が擔當するやうに
此程略ぼ竣功せし
運びに至るべしと
期の肺病病後ハ衰
女の體質を改良ま
の養生所なれば近
行はる伊太利の如
なるもの已に二十
全國中の海濱院へ
人に近く患兒百人
療養の効あるもの
人生に必要にして
あれどとて長與氏
所も東京を距る遠
許りの地にして鐵
沙靑松の間に在り
倉第一の新景勝を
避暑旁々養生よ出

○小石川衛生會
ざりしが今度同區
衛生會を設立した
に適せしかば中村
の二氏を副會長に
の開會式を擧行し
稻次郎、永井久一郎
正誠等諸氏の演說
し整然質素に其式

○捕鯨船廻航　遠
なる所へ近來鯨魚
は捕鯨の術を知ら
して此際其筋よ
鯨船を同沖へ廻航

○水產小集會　明
館に於て水產小集

○鮑の景況　輸出
[illegible]の位地を占め
は本年も昨今新貝
内外の相場と引
年は多少弱[illegible]と含
び同品の[illegible]とも
の好況なりと云ふ

生等明後日即チ二十三日午後四時四十五分ヲ以テ新橋ヲ發足仕候ニ付右時刻御尊被遊候御方ヘ御報道申上候又炎暑之際ニ御座候故御見送被下候義ハ御用捨被下度候
[illegible]藤豐太

今般第九期生募集候ニ付志願者ハ來ル八月十日迄ニ願書持參當所ヘ出頭アルベシ但シ十一日ヨリ授業ス
卒業期限ハ凡四ヶ月以內トス
麹町區下二番町七十一番地
私立 東京体操傳習所

三田學術演說會　傍聽無料
山名次郎　新井旭　小野友次郎　高橋義雄　林梅四郎　福澤諭吉
來る廿三日（第三土曜日）午後一時より三田慶應義塾演

○七月廿四日午後
佛教演
學師本會今般從來
有志者ハ郵券二錢